

## 消防ヒヤリハットデータベース事例回答シート

### 【事故概要について】

1. 事故・ヒヤリハットの別	ヒヤリハット
2. 体験した事例の名称	庁舎車庫の屋上で梯子を使用した高所救助訓練を実施していた際、突然の強風により梯子がぐらつき転倒しそうになった事例。
3. 体験した事例の中心的要素	応急はしご救出訓練の荷重確認の際に、地上にいた隊員が確保準備に入っている中、突然の強風により梯子がぐらつき転倒しそうになった。
4. 体験した事例の原因・理由	突然の強風であったため予測ができなかった。また、少人数で訓練を実施しており、万が一（梯子が転倒するなど）の時に、梯子を確保するなどの補助員や安全管理者がいなかった。

### 【体験した事例の直接的な原因について】

1. 体験した事例の直接的な原因	状況判断に問題があった。
------------------	--------------

### 【体験した事例について】

1. 発生日時	平成24年8月11日 午後2時頃
2. 発生した当時の天候	晴れ
3. 発生した活動現場	屋外：庁舎車庫の屋上
4. 体験した事例の種類	回答者が、他人を負傷させそうになった。
5. 事故の程度（ヒヤリハットの場合、仮に負傷したときの程度）	重傷の怪我をしていた（させていた）だろう
6. どのようなことが起きたのか（起きそうになったのか）	墜落・転落
7. 事例体験時の活動	演習訓練、[救助（通常時）]
8. （7の活動中）どのような作業中に発生したか	高所救助訓練
9. 同様の体験は、これまでにどの程度の頻度で体験していますか。	これまでに1, 2回程度体験している。

10. ヒヤリハット体験当事者の属性（回答者は当事者A）



○当事者A	年齢[24]歳、勤続年数[5]年、現場経験年数[5]年、階級[消防士] 同様の活動 [過去に1,2回程]、任務 [隊員]
○当事者B	年齢[37]歳、勤続年数[15]年、現場経験年数[15]年、階級[消防士長] 同様の活動 [過去に1,2回程]、任務 [その他:隊長]
○当事者C	年齢[38]歳、勤続年数[20]年、現場経験年数[20]年、階級[消防士長] 同様の活動 [過去に1,2回程]、任務 [その他:要救助者]
○その他(当事者が4人以上の場合)	当事者D 45歳、勤続26年、現場経験26年、消防司令補、過去に1, 2回程度、隊員

11. 事例発生の経過。



	誰が(何が)	なにをした	その他・備考など
経過1	当事者B 当事者D	車庫屋上に梯子架梯	
経過2	当事者B	登梯し、屋上へ進入、状況伝達	
経過3	当事者A	救出ロープを携行し登梯、3連目の梯上で補強棒取り付け、その後、屋上へ進入	
経過4	当事者D	地上にて、救出ロープ整理	
経過5	当事者A 当事者B	当事者Cにロープ縛着	当事者Cは予め屋上で待機
経過6	当事者D	救出ロープ確保準備	
経過7	当事者A,B,C,D	荷重確認体制に入っているところ、突風により梯子があおられぐらつく。	
経過8	当事者A 当事者B	ぐらついた梯子の上部を確保	
経過9			
経過10			
経過11			
経過12			

【その事例発生時の状況について】



○事故の場合 : 事故が起きたのはどうしてだと思うか？

○ヒヤリハットの場合 : ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？

体力、反射神経等身体能力が優れていた。危険情報を把握、予見できた。集中力、注意力があった。資機材の操作がうまくいった。周囲の視界が確保できていた。指揮者が適切に指示した。他隊(員)との連携活動がうまくいった。他隊(員)から適切な注意を受けた。たまたま、事故にならなかった。

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。	いいえ
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	いいえ
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	いいえ

b. 注意力が欠如していた

・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	はい
・活動終息(鎮火等)や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	いいえ
・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	いいえ
・活動に対する経験が不足していた。	いいえ

d. 心身の不調があった。

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境(雨・濃煙)によって視界がさえぎられた。

・障害物(建物等)のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・特異環境(煙、暗闇、降雨等)のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	いいえ
・暑かった(寒かった)。	いいえ
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	いいえ
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった(適切な指示を与えられなかった)。

・活動指示が得られなかった。(無線が通じない等。)	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。(周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。)	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	いいえ
・隊員が不足していた。	いいえ

○その他

l. その他の理由があった。

応急はしこは隊員3名でも実施可能であり、隊員自体は不足しておらず技量にも問題はなかったが、全体を把握できる安全管理者がいなかった。
---

【事故発生後の取り組みについて】



○注意力欠如、焦り等の対策について

○装備・資機材の対策について

○活動環境の対策について

○指揮・情報伝達の対策について

# 状況図

